

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年5月9日

【四半期会計期間】 第3期第1四半期(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

【会社名】 アートsparkホールディングス株式会社

【英訳名】 ArtSpark Holdings Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 川端 一生

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和彦

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿四丁目15番7号

【電話番号】 03-3710-2985

【事務連絡者氏名】 取締役 星 和彦

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第2期 第1四半期 連結累計期間	第3期 第1四半期 連結累計期間	第2期
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日	自 平成25年1月1日 至 平成25年12月31日
売上高 (千円)	1,152,398	812,590	3,685,419
経常利益又は経常損失 () (千円)	231,898	74,066	68,222
四半期(当期)純利益 又は四半期純損失 () (千円)	203,291	64,320	42,811
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	272,520	66,039	62,933
純資産額 (千円)	2,617,282	2,237,838	2,286,213
総資産額 (千円)	4,405,006	3,490,599	3,650,704
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は四半期純損失金額 () (円)	30.63	9.68	6.45
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)			6.43
自己資本比率 (%)	58.9	63.0	61.9

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第2期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、第3期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

なお、特定子会社の異動はありませんが、平成26年2月28日付で株式会社エイチアイ(当社の連結子会社)は、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し、子会社化しております。これに伴い、当第1四半期連結会計期間においては、貸借対照表のみを連結しております。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当社グループは「デジタル“ものづくり”」の応援と支援を経営理念に掲げ、イラスト、アニメ、マンガをはじめとするグラフィクスコンテンツや、デジタル機器のユーザーインターフェースのデザインなど、一般個人の趣味からプロフェッショナル仕様に至るまで幅広くデジタルでの“ものづくり”を支援する企業グループであります。デジタルによるコンテンツの制作と利用が一般に普及する社会において、引き続き重要なポジションを担い続けられるよう、当社グループの強みであるグラフィクス関連技術とサービス開発の相乗効果を最大限に活かした事業活動を推進しております。

携帯端末市場の中心がスマートフォンへと急速に移行していく中で、当社グループは積極的に事業構造改革を進めており、コスト削減と利益率の向上を目指す一方で、戦略投資事業における投資の成果であるソリューション事業の強化を進めております。

当第1四半期連結累計期間においては、各事業セグメントにおいて、継続的に販売活動の強化を推進するとともに、前連結会計年度に実施した事業構造改革の成果による人件費や減価償却費の軽減が売上原価及び販売管理費の圧縮に貢献しており、クリエイターサポート事業において当第1四半期連結累計期間での黒字化に至っております。また、UI/UX(ユーアイ/ユーエックス)事業における関西地域の事業拠点とする目的で株式会社エイチアイ関西を孫会社化し、車載機向けを中心とした事業展開の推進を強化しております。

その結果、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は812,590千円(前年同期比29.5%減)となりました。UI/UX事業において、モバイル向けのロイヤリティ収入が減少した影響で、営業損益は66,019千円(前年同期は235,678千円の営業利益)の営業損失となりました。

経常損益につきましては、為替差損2,971千円の計上や、当社の持分法適用会社であるガラット株式会社等に対する投資持分について、持分法による投資損失1,110千円を計上したこと等により74,066千円の経常損失(前年同期は231,898千円の経常利益)となりました。純損益につきましては、株式会社エイチアイ関西の取得による負ののれん発生益13,849千円の計上等により64,320千円の四半期純損失(前年同期は203,291千円の四半期純利益)となりました。

事業別セグメントにつきましては、以下のとおりであります。

<コンテンツソリューション事業>

コンテンツソリューション事業の中心である携帯電話市場におきましては、平成26年3月末で国内携帯電話加入契約数が1億3,955万台(前年比5.9%増)となっております。(社団法人電気通信事業者協会発表「携帯電話・PHS契約数」より)

また、平成25年1年間における国内携帯電話端末の総出荷台数は、前年比10.2%減の3,929万台となりましたが、総出荷台数に占めるスマートフォン出荷台数比率は74.5%(前年比5.0%増)となっております。(株式会社MM総研発表より)

このような経営環境の中、「BS Reader for Browser」が利用されている電子書籍配信サービス数は、平成26年3月末では700サービス超となっております。

以上の結果、総合電子書籍ビューア「BS Reader」を軸として推進するコンテンツソリューション事業の売上高は288,728千円(前年同期比13.0%減)、営業利益は7,366千円(前年同期比70.6%減)となりました。

<クリエイターサポート事業>

当第1四半期連結累計期間では、マンガ制作機能を強化した「CLIP STUDIO PAINT」の英語版及び中国語版の最新バージョンをリリース、また複数人で共同作業をサポートする新機能を追加した同製品のバージョンアップ等を実施いたしました。

なお、クリエイターの創作活動をトータルに支援するサイト「CLIP」においては、平成26年3月末時点の登録者数は39万人となっております。

以上の結果、売上高は172,967千円（前年同期比18.7%増）、営業利益は449千円（前年同期は33,645千円の営業損失）となりました。

<UI/UX事業>

当第1四半期連結累計期間では、「デザインエンジニアリング」をテーマに、自動車関連分野を中心に受託開発収入が堅調に推移し、顧客基盤の拡大が進んでおります。関西方面での顧客対応の強化策として、株式会社エイチアイ関西を平成26年2月28日付で孫会社化いたしました。一方、利益率の高いロイヤリティ収入において、モバイル向けを中心に前年同期との比較で大きく減少する事となりました。費用面では外注費の削減が進んでおり製造費用が減少いたしました。

以上の結果、売上高は304,438千円（前年同期比49.1%減）、営業損益は99,921千円の営業損失（前年同期は226,748千円の営業利益）となりました。

<アプリケーション事業>

前連結会計年度より事業の縮小を進めております。継続中の一部サービスにおける運用業務の手数料等を収益計上しております。

以上の結果、売上高は46,637千円（前年同期比40.6%減）、営業利益は15,565千円（前年同期比246.6%増）となりました。

（2）財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、3,490,599千円となりました。うち、流動資産は1,927,435千円であり、主な内容は現金及び預金1,121,617千円であります。また、固定資産は1,555,859千円であり、主な内容はソフトウェア918,206千円、投資有価証券201,035千円であります。

当第1四半期連結会計期間末における総負債は、1,252,761千円となりました。うち、流動負債は948,652千円であり、固定負債は304,109千円であります。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、2,237,838千円となりました。なお、自己資本比率は、63.0%となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について、重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発費の総額は、16,194千円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年5月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,647,375	6,647,375	東京証券取引所 (市場第二部)	完全議決権株式であり、剰余金の配当に関する請求権その他の権利内容に何ら限定のない、当社における標準となる株式です。なお、当社は種類株式発行会社ではありません。 普通株式は振替株式であり、また、単元株式数は100株です。
計	6,647,375	6,647,375		

(注)「提出日現在発行数」欄には、平成26年5月1日から本四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年1月1日～ 平成26年3月31日 (注)	10,605	6,647,375	2,837	1,003,158	2,837	253,158

(注)新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成25年12月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,595,100	65,951	株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式。なお、単元株式数は100株です。
単元未満株式	普通株式 40,470		
発行済株式総数	6,636,770		
総株主の議決権		65,951	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、自己保有株式が70株含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) アートスパークホールディングス株式会社	東京都新宿区西新宿4-15-7	1,200		1,200	0.01
計		1,200		1,200	0.01

2 【役員 の 状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,323,533	1,121,617
売掛金	552,076	555,569
製品	30,453	25,459
仕掛品	18,926	9,687
原材料及び貯蔵品	99,376	94,666
その他	119,140	130,775
貸倒引当金	12,608	10,340
流動資産合計	2,130,897	1,927,435
固定資産		
有形固定資産		
建物	113,436	114,832
減価償却累計額	77,681	79,173
建物(純額)	35,755	35,659
工具、器具及び備品	209,417	219,244
減価償却累計額	189,439	196,512
工具、器具及び備品(純額)	19,977	22,732
有形固定資産合計	55,733	58,391
無形固定資産		
ソフトウェア	855,846	918,206
ソフトウェア仮勘定	88,189	71,332
のれん	27,964	26,216
その他	31,039	32,150
無形固定資産合計	1,003,040	1,047,906
投資その他の資産		
投資有価証券	203,623	201,035
敷金及び保証金	193,517	193,400
その他	55,978	55,124
投資その他の資産合計	453,119	449,560
固定資産合計	1,511,893	1,555,859
繰延資産	7,914	7,305
資産合計	3,650,704	3,490,599

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	168,904	137,917
短期借入金	390,000	390,000
1年内返済予定の長期借入金	206,879	190,210
未払法人税等	19,776	5,918
返品調整引当金	8,292	9,474
その他	227,154	215,132
流動負債合計	1,021,006	948,652
固定負債		
長期借入金	267,512	228,287
退職給付引当金	72,078	72,763
繰延税金負債	3,895	3,058
固定負債合計	343,485	304,109
負債合計	1,364,491	1,252,761
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,000,320	1,003,158
資本剰余金	479,447	482,285
利益剰余金	773,184	708,864
自己株式	609	693
株主資本合計	2,252,343	2,193,614
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	7,382	5,664
その他の包括利益累計額合計	7,382	5,664
新株予約権	26,486	28,480
少数株主持分		10,078
純資産合計	2,286,213	2,237,838
負債純資産合計	3,650,704	3,490,599

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
売上高	1,152,398	812,590
売上原価	590,573	592,532
売上総利益	561,824	220,057
返品調整引当金戻入額	3,775	8,292
返品調整引当金繰入額	2,979	9,474
差引売上総利益	562,620	218,875
販売費及び一般管理費	326,941	284,894
営業利益又は営業損失()	235,678	66,019
営業外収益		
受取利息	182	362
為替差益	1,881	
その他	263	67
営業外収益合計	2,327	430
営業外費用		
支払利息	2,414	2,233
為替差損		2,971
持分法による投資損失	2,150	1,110
その他	1,542	2,161
営業外費用合計	6,107	8,477
経常利益又は経常損失()	231,898	74,066
特別利益		
新株予約権戻入益	4,256	101
負ののれん発生益		13,849
特別利益合計	4,256	13,951
特別損失		
支払和解金	7,600	
投資有価証券評価損	4,148	
特別損失合計	11,748	
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	224,407	60,115
法人税等	21,116	4,205
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	203,291	64,320
四半期純利益又は四半期純損失()	203,291	64,320

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	203,291	64,320
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	69,229	1,718
その他の包括利益合計	69,229	1,718
四半期包括利益	272,520	66,039
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	272,520	66,039
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、株式会社エイチアイ関西の株式を新たに取得したため、連結の範囲に含めております。なお、同社の決算日は3月31日であり、当第1四半期連結会計期間におきましては、みなし取得日を平成26年3月31日とし、貸借対照表のみを連結しております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年3月31日)
税金費用の計算	税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日至平成26年3月31日)
減価償却費	127,085千円	131,857千円
のれんの償却額	1,747千円	1,747千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

平成25年3月開催の定時株主総会決議により、利益剰余金の欠損填補を行い、資本剰余金のうち1,388,473千円を減少し、資本剰余金は479,126千円となっております。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	331,682	145,709	597,464	77,541	1,152,398		1,152,398
セグメント間の内部売上高 又は振替高			340	980	1,321	1,321	
計	331,682	145,709	597,805	78,522	1,153,719	1,321	1,152,398
セグメント利益又はセグメン ト損失()	25,030	33,645	226,748	4,490	222,623	13,055	235,678

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	コンテンツ ソリューション事業	クリエイ ターサポ ート事業	UI/UX事業	アプリケー ション事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	288,728	172,786	304,438	46,637	812,590		812,590
セグメント間の内部売上高 又は振替高		181			181	181	
計	288,728	172,967	304,438	46,637	812,771	181	812,590
セグメント利益又はセグメン ト損失()	7,366	449	99,921	15,565	76,539	10,520	66,019

(注)1 セグメント利益又はセグメント損失()の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない全社収益、全社費用の純額であります。

2 セグメント利益又はセグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結会計期間より、当社の連結子会社株式会社エイチアイが、株式会社エイチアイ関西の株式を取得し子会社化したことに伴い、UI/UX事業において負ののれん発生益13,849千円を特別利益に計上しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 株式会社エイチアイ関西

事業の内容 移動体通信関連のソフトウェア開発業務

企業結合を行った主な理由

UI/UX事業における関西地区の事業規模拡大の拠点とするためであります。

企業結合日

平成26年2月28日

企業結合の法的形式

第三者割当増資引受及び株式の取得

企業結合後の名称

名称変更はありません

取得した議決権比率

株式取得直前に所有していた議決権比率 0.0%

取得後の議決権比率 91.7%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社子会社株式会社エイチアイが、現金を対価として株式会社エイチアイ関西の株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成26年3月31日をみなし取得日としているため、当第1四半期連結累計期間には、被取得企業の業績は含まれておりません。

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価 97,500千円

取得原価 97,500千円

(4) 負ののれん発生益の金額及び発生原因

負ののれん発生益の金額

13,849千円

発生原因

企業結合時の時価純資産額が取得原価を上回ったため、その差額を負ののれん発生益として計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年3月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()	30円63銭	9円68銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	203,291	64,320
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	203,291	64,320
普通株式の期中平均株式数(株)	6,635,226	6,643,812
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
(うち支払利息(税額相当額控除後)(千円))		
普通株式増加数(株)		
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。また、当第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(重要な後発事象)

第三者割当増資引受による会社等の買収

平成26年4月15日に、当社子会社である株式会社エイチアイは株式会社U'eyes Designの株式を取得し、子会社化しました。

(1) 第三者割当増資引受の目的

UI/UX事業において「デザインエンジニアリング」の活動を強化し、推進を加速させるために両社のもつノウハウと顧客基盤を共有するためであります。

(2) 買収する会社の名称、事業内容、規模

名称	株式会社U'eyes Design
事業の内容	機器・装置・システムの企画、開発、設計、デザイン及びコンサルタント業務
資本金	50,000千円

(3) 株式取得の時期

平成26年4月15日

(4) 第三者割当増資引受の内容

取得株式数	2,000株
取得価額	40,000千円(1株につき20,000円)
取得後の持分比率	60.6%

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年5月9日

アートスパークホールディングス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 野 淳 史 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 石 井 広 幸 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているアートスパークホールディングス株式会社の平成26年1月1日から平成26年12月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、アートスパークホールディングス株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。